#218 レディースタイム　2020.09.25

聖書理解のキーワード「贖い」とは？　東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏

----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧-----✧----

今、ガラス張りの老健施設のお話を伺いながら、このアクリル板の内側に立っていると、私自身が老健施設の中に入り、皆様のお見舞いを受けているような感じがしますね。
でも、今日は雨の中、それでも来てくださったという事で、晴れの時より以上に嬉しいという気がします。
私は低気圧が来ると頭痛が始まって、雨が大の苦手。朝起きた時、雨だったり曇ってたりすると、一日損したような気がして、「鬱陶しいな。やっぱり空は青でないとな」などと家内とよく話します。

私の友人に数年前仕事を変えた人がいるんですが、彼は「朝起きた時に雨が降っていたらホッとする」と言うんです。彼の仕事は農業。数年前に脱サラして農業を始めました。
田んぼや畑で作物を作っている人にとって、1番の問題は雨が降る季節に雨が降らない事。
農業技術がどんなに進歩したとしても、天候だけは人間の科学技術でコントロール出来ないんですよね。
だから、雨が降る季節に雨が降ってくれたら「ああ、良かった！」ホッとする。
作物のオーナーは、自分が育てている命の事をまず第一に考えるんだな、と改めて思いました。

聖書によると全宇宙・全世界にもオーナーがおられる。オーナーとは所有者という意味です。
では、全宇宙・全世界のオーナーは誰かというと、全宇宙の作者がそのままオーナーなんです。
この世界をお造りになった第一原因者を聖書は創造主と言いますが、創造主なるお方はご自分が造った一つ一つのものを心に留めておられる。

宇宙を見ているとあまりにも大きくて、「ちっぽけな人間・ちっぽけな私の事なんか、神が覚えているはずないわ」と思い易いけど、顕微鏡をのぞくと、水たまりの中にもおびただしい生き物がいるじゃありませんか。肉眼で見る事が出来ない小さな生き物一つ一つをもお造りになった神は、神のかたちに似せて造った人間を・あなたを絶対に忘れてません。神はあなたを心に留めておられる。
あなたを愛しておられる。神様は「愛しているんだよ」という事を伝えたいんですね。

“伝える”と“伝わる”は違いますね。みんな一生懸命伝えてるけど、心に届いているかどうかは別問題。
私は金曜日に来る時は同じ時間に同じルートを通るのですが、いつも角で立ち話をしているおばさんがいるんですよ。2人で。今日は雨で見かけなかったんですが。もう会釈するようになりましたけどね。
一旦集会所に着いて、「あ、しまった！忘れもんした！」もう1度帰ったら、まだ喋ってる。
20分くらい話してるんじゃないかと。でも、お互い別々の事を話しているみたい。
言葉のキャッチボールじゃなくて、自分が言いたい事を言うて、相手は全然関係ない事を言うて。
そら、いつまでも続くやろなと思います。

“伝える”と“伝わる”は違う。神はあなたを愛している・人間を愛しているという事を、人間に伝わる形で示すために人間になられました。ご自分のひとり子の神をこの世界に送ってくださったんです。

処女マリアから誕生させた人となられた神がイエス･キリストです。これは苗字と名前ではありません。
“イエス”は名前で“主は救いです”という意味。この世界を造られた神様は救い主です。
“キリスト”は“救い主”という意味を表す称号なんですね。天皇・王・関白など色んな称号があります。
人名イエスは旧約聖書に預言されていた救い主なのだ、というのがイエス･キリスト。

今日は、イエス･キリストが私たちを神の下（もと）に連れ戻すために・神を表すために、具体的にどんな事をしてくださったのかを、自ら説明している箇所をご紹介したいと思います。
マルコ 10 章 45 節。今日はこの一節だけをお話しますので、自分の聖書を開いて、何か気づきがあったら書き込みしていただいたらいいと思います。自分の聖書に。集会の聖書にはメモなさらないように。時々メモしてあるのがあって。勘違いして書かれたみたいですね。

マルコ 10:45
人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。

ここに、キリストがわざわざ人の姿を取って来られた理由が書いてありますね。
3 つのポイントでご紹介しましょう。

1)キリストは何のために来ましたか？仕えられるためではなく仕えるために。人間に仕えるために来た。
なぜ？それが私たちを造られた神を示す事になるからです。聖書が語っている神は人に仕える神。
世の中には毎日水替えなあかん・前掛け替えなあかん・頭磨かなあかんとか、色々あるじゃないですか。
人が世話しなければならない神ではなく、人を造った神は私たちの世話をしてくださっている。
生きて行くのに無くてはならない空気も水も太陽も、自然界も重力もエネルギーも、全てのものを神様はタダで提供してくださっていますよね。私たちを生かしているんです。

仕えられる者と仕える者ではどちらが偉いか？普通は仕えられる者が上位です。仕える者はしもべです。
しもべが主（あるじ）に仕える。位の低い者が高い者に仕える。上の立場の人が仕えられる。
しかし人間の世界でも、上の立場なのに下の弱い者に仕えるという関係がありますよね。親子関係です。
特に子供が赤ちゃんの時。赤ちゃんは仕えられないと生きて行けません。
親はよだれが垂れようが、下（しも）の世話から何から全部している。
仕えられているのは子供で、仕えているのが親。
魂の親である神は、あなたが気づいているか否かに拘わらず、今まであなたに仕えて来られた方なんですよ、と言っておられるのです。

昔旅行雑誌に載っていたので紹介した事があるんですが、ある日本人女性の旅行記です。
フランクフルト空港でトランジット（乗り換え）の時間が 5 時間ある。
5 時間もじっとしているのは苦痛なので、売店に行って好きなファッション誌と大好物のドイツ製ポテトチップスを買い、ベンチに腰掛け、隣の席に鞄を置いて、パリポリ食べながら雑誌を見てました。
そしたら、鞄の隣にドイツ人の男性が座って、彼は彼で男性雑誌を見ながら時間を過ごしていました。
ドイツの人って大きいわ。ドイツもこいつもね。前も言ったけど、フランクフルトの男性用お手洗いの小便器のポジションの高さ、皆さんには分からないと思います。思わず子供用に行きたくなる。

彼女はポテトチップスを食べてて袋に手を入れた時、何かに当たったんです。
ハッと見たら、その男がポテトチップス食べとるんですよ。大きいから手もショベルカーみたいな。
「ナニ？この人！」しげしげと見ると、ニコ～って笑うんですね。
天真爛漫の満面の笑顔の人を怒鳴りつけるの、難しいですよ。キツイコトって中々言えない。
言葉をグッと呑み込んで。もしかしたら、この人、やばい人ちゃう？
また、そーっとポテトチップスに手をやると当たる。見ると彼が食べてる。

やばい人かもしれないし、キッと睨んで「ポテトチップスくらい、くれてやるわ！」みたいな気持ちで、それを置き去りにして、少し離れた別の椅子に腰掛けて、さっきと同じように隣に鞄を置いて雑誌を出そうとしたら、中から新品のポテトチップスの袋が出て来たんですよ。
意味分かりますか？あのポテトチップスは彼の物だったという。

雑誌読むのに集中してたから、自分のを開けたかどうかとか思わなかったみたい。
彼女は「これは私の物で、私の権利を赤の他人が侵しているんだ」と思っていた時は、その人に対する怒りがこみ上げて「なんと失礼な！」だったのですが、人の物を勝手に使っていたのは、実は私の方だったという事が分かるや否や、突然恥ずかしさで満たされたのです。
彼が提供して、私が我が物顔でそれを使っていたんじゃないか。それなのに、私は自分の物だと思い込んでいたので、彼を「失礼なヤツだ。こんなのいらないわ。離れたいわ」と思った。

この世界の造り主を認めず、この方に生かされているという事に気づいていない人間は、彼女がこのドイツ人男性にしたのと同じ事をしているんだと言うのです。
私たちがパリポリではないけど、日々生きて行くのに無くてはならない必要なもの…空気も水も大地も、自然界のシステムもエネルギーも太陽も、時間も重力も、人が造ったものってありますか？
1つもない。全部神が造られたのです。なので、所有権は神にあるのです。それを私たちは使っている。
使っていながら、しかもそれを提供している創造主の存在を認めず、「神なんか要らない！神なんか存在しない！」と言うとしたら、それは途方もなく失礼な・無礼な事になるのです。

なぜ「創造主を無視する事は罪」とまで言われなければならないのですか？
所有者に対する無礼だからです。仕えても仕えても、援助しても援助しても、親切を注いでも注いでも、1回も「ありがとう」と言わない人に、親切を尽くし続ける事が出来ますか？
難しいんじゃないかなと思うんですよね。
でも、あのドイツ人男性がニコ～っと笑いながら、黙々とポテトチップスを提供し続けたように、神は黙って黙々と、私たちが生きて行くのに必要なものを提供し続けて来られたんじゃないですか？

神とは人に仕えられている神ではなく、人間に仕えている神なんです。だから、キリストは仕える事によって「神は仕える神なんだよ」と、もう1度思い起こさせようとされたんですね。

2）多くの人のための贖いの代価となるために来た。
贖いの代価は専門用語。一般的には、奴隷の状態に陥った人を解放するために身代金を払う事です。
誰かを何かから自由にする。しかし、本人が支払う事が出来ないので、自由になるための代価を代わりに払うために来たんですよ、と言われたのです。

これも昔読んだ本にあったのですが、手先の非常に器用な少年がいて、廃材などを加工して部品を作り、それを組み立ててヨットを作りました。しかも、ただ見るためのヨットではなく、水にバランスよく浮かぶ見事なヨット。何か月も掛けて磨き上げてペイントして。大のお気に入り。
学校から帰って、最初に挨拶するのはヨット。暇があればピカピカに磨いて、寝る時には枕元に置いて。
我ながらホレボレするような出来栄えの、大のお気に入り。

ある日、ただ部屋に飾っておくヨットではないという事で、湖に行って浮かべてみると見事に浮かんで素晴らしい。ウットリするような姿。

ところが風が吹いて、ヨットがそのままスーッと。「いかん！」ざぶざぶと水に入って行ったのですが、追いつく事が出来ず「行くな行くな」と思いながら、目の前でどんどん沖へ沖へ。
手の届かない所まで行ってしまい、遂に見失ってしまったんです。

次の日から少年は、学校から帰ったらすぐに湖に行って、岸辺のどこかに打ち上げられていないかと捜しまくり、友達にも声を掛けて「見かけたら教えてくれ」と言い、「見かけたら僕の物だから返してください」とポスターを描いて貼り、八方手を尽くすけど、とうとう見つける事が出来ませんでした。

ところが、半年ほどして模型店を見た時、衝撃が走った。
自分が作ったヨットが商品として売られている。しかも非常に高額で。
紛れもないこのペイント。ヨットの名前が書いてある。僕は作者だから１番よく知っている。
これは僕が作った。

店に飛び込んで、店主に「あのヨットの作者は僕です。だから僕に権利があると思います。返してください。」しかし店主は、「それは出来ん。これはある人から私が買い取った物だ。私が拾った物なら返す事が出来るかもしれないが、私も商品にするために代価を払っているから、タダで渡す事は出来ない。もしこれが欲しいなら、値札通りの値段で買ってください。他にも欲しい人はいるから。」

少年だから、そんなにお金がないんです。そこで彼は「取り置きしてもらえませんか？予約にしてもらえませんか？必ず僕が買い戻すので、それまで取り置きしてもらえませんか？」
「さぁ…」意地悪ですね。

それから彼は、学校から帰るとアルバイトを２つ掛け持ちして、お金を貯めて貯めて、遂に満額揃った時、いの一番にお店に行って「ここに全額揃ってます。これで支払います。ヨットを返してください」と現金をバンと渡しました。これが贖いの代価です。

少年が丹精込めてヨットを作ったように、神は人を特別に心を込めて造られました。
どんな風に心を込めたのか？「われわれのかたちに似せて人を造ろう」と書いてあるんです。
実は人間は神の似姿を持っています。人間は創造主のかたちに似せて造られました。

創造主は人格を持っているでしょ。だから、私たちには人格があるんです。
創造主は創造的な方だから創造主です。人間も他人の物真似ではなく、創造的に生きている時にイキイキしますよ。
創造主が自由意思を持っておられるように、私たちも自由意思を持っている。それは、神が持っておられる自由意思に似せて造られているんです。
創造主には知性があります。人間にもあります。不完全ですが。
創造主には感情があります。人間にも喜怒哀楽があります。
創造主には意思があります。人にもあるのです。丹精込めて造られました。

しかし、ヨットが少年の手から離れて行ったように、人間はその自由意思を悪用し、最初の人間アダムは罪を選んで、神の手から離れて行きました。
このいのちと祝福の源から離れる事が、聖書が言う罪です。
そうして、罪の結果を身に引き受ける事になってしまいました。罪の結果が死なのです。

死と死後の裁きから私たちを自由にするためには買い戻す必要がありました。
この買い戻しのお金が贖いの代価です。人間は自分で自分の代価を払う事が出来ません。
そこで神は、人が出来ない事を代わりにしてくださったのです。それがイエス･キリストの贖いの代価。
キリストが身代わりに私たちの罰を引き受けてくださった。そのために来ましたよ、というのがここで語られている意味です。

3）多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。
いのちを与える。与えるという事を考えるのに、絵本を 1 冊持って来ました。『大きな木』。
56 年前にアメリカのシェル･シルヴァスタイン、元々大人向けの漫画家・イラストレーターだったのですが、才能がいっぱいで、途中から詩人になり、ある時から脚本家になり大ヒット、そしてまたシンガーソングライターになってグラミー賞を受けているんですよ。
グラミー賞分かります？日本のレコード大賞、よりもっとすごい。本業なんなんっすか？みたいな。

昔クリスマスの特別集会で、ある教会に招かれてメッセージをさせていただいたんですが、その後で『大きな木』の朗読があったんです。もうメッセージが吹っ飛んだ。感動して。「ええ話や！」
長らく絶版だったのが、数年前に新しい翻訳者が出て、なんとなんと村上春樹（むらかみ はるき）。
数年来「ノーベル文学賞、今年は村上春樹！」と言われ続け、もうすぐまた発表がありますよ。
村上春樹のファンはハルキストと言われます。皆さんはどう？
そもそも読んだ事がないから、感想の求めようがないと。

私は「前の訳が良かったかな」と思いながら、絶版でこれしかないので読んだのですが、38 カ国 900 万部超のベストセラー。世代から世代へとずっと読み継がれて来た。良いものは国境を越えてます。

ある所に大きなりんごの木がありました。1 人の少年が遊びに来て、すばしこくて木登りが嬉しい。
よじ登ると、身長の低い僕が世界を上から見渡す事が出来る。「ここは僕の宮殿みたいだ！」と喜んで。
お腹がすくとピュッともいで食べるのですが、誰も知らない秘密の味。「おいしいなあ！」
疲れたし、お腹もいっぱいになった。そんな時は下りて木陰で休む。
リンゴの木陰で休むと、良い香りで何とも言えない至福の境地。
りんごの木は少年が大好き。少年もりんごの木が大好き。相思相愛。2 人は幸せな時間を過ごします。

やがて少年が成長すると、「木登りなんか子供っぽい幼稚な事、やってられるか」と来なくなりました。
「昔みたいに遊びに来てくれたら、どんなにいいだろう」と待っていたら、青年になった元少年が来て（翻訳はずっと少年のままで行くんです）、「遊ぶのに、デートするのに、買い物にお金がいる。お金頂戴よ。」
「私にはお金はないんだよ。」「がっかりさせんなよ！」みたいな感じですよ。
「じゃあ、このりんごの実を市場で売ってごらん。現金化したらいいじゃない。」
少年はどうするかというと、「ありがとう」と言って、5･6 個ではなく全部取って行くんですよ。
そして、現金化したら来なくなりました。

「今度はいつ遊びに来てくれるかなぁ。」すると、大人になった元少年が「俺さ、家欲しいんだけど材木ないねん。どうしたらいいかな？」「私には太い枝がたくさんあるから、それを使ったらいいよ。」
でも、枝を全部取ったら実がならないですよね。元少年は全部伐採するんです。
「これだけあったら家建てられるわ！」そうして、家を建て終わると戻って来ませんでした。

それからずいぶん経って、また来ました。今度は「俺、冒険してみたい。遠くの国に行って、色んなものを見て来たいんだよ。人生１回しかないからね。だから船が欲しい。船、くれよ。」
「私はりんごの木だから船はない。どうしても要るなら、私を切り倒したらいいじゃないか。」
断ると思ったら、「そうだよな」と言ってバーンと切るんです。
“そのとき、りんごは幸せではありませんでした。”と書いてあります。なんか重い話やん、これ。
元少年は、幹をくりぬいて、船にして出かけて行きました。

いよいよ少年がおじいさんになった時、また来ました。
「久し振りに会いに来てくれたんだねぇ！」とりんごは大歓迎。「うん。疲れてるんだ。」
「そうか。元気づけるために実をあげたいけど、もう無いし。」「僕には歯がない。」
「木登りする枝も無いし。」「登る元気もないよ。今必要なのは、腰かけて静かにいつまでも休める場所。秘密の安息の場所が欲しい。」
そしたら、りんごの木がピーンと背筋を正して、今まで斜めだった切り株が水平になり、座るのに丁度良い椅子の形になって、「ここに、いつまでもお座りなさい。」
“そして、ふたりは幸せでした。”そこで終わる。

原題は『大きな木』ではなく『与える木』。これを読んだ時、聖書の１箇所を思い出しました。
旧約聖書の雅歌に「私の愛する方が若者たちの間にいるのは、林の中のりんごの木のようだ」という言葉があります。（雅歌 2:3）
愛する方とは救い主の事です。救い主はりんごの木のような方で、私たちに元気を与え・慰めを与え・日照りの時には木陰になり・安息を与える。

でも、“伐採されても安息される”なんて事は書いてない。自らが伐採した物の上に、元少年は唯一の安息の場所を見つけた。そこが彼の唯一の安息の場所となった。
というのですが、キリストは自分のいのちを与えるために来たと言われました。

キリストは十字架の上で１度倒れました。釘づけされて支えられたお方です。
この方はいのちを捨ててくださった。人の罪の贖いのために十字架の上でいのちを与えてくださった。死んでくださった。
“いのちを奪われるため”と書かずに“与えるため”に来たという事の中に、キリストの自発性を見る事が出来ます。無理やり強いられての十字架ではなく、私たちにいのちを与えるために、十字架にかかって死んでくださった方。

そして、死んで終わりではなく、墓に葬られましたが３日目に復活されました。
今読んでいる箇所はマルコの福音書、新約聖書の前から２番目、マルコが書いたからマルコの福音書。
マルコは誰から聞いて書いたのか？イエスの一番弟子とも言うべきペテロです。
ペテロが口述するのを、マルコが書き留めたのではないかとも言われています。
つまり、ペテロが見たイエス･キリスト像を最も表している福音書がマルコの福音書なんです。

ペテロはイエスが十字架に掛かる前、自分が巻き添えを食わないように「あんな人、知らない！」と３度しらばっくれているんです。「イエスとは無関係です」と証明するために。
「あの人とは何の関わりもない。あんな人なんか知らない！」と言った時、イエスが振り向いて、目と目がバチッと合いました。自分がしでかしている罪の現場をイエスに見られた。

その後、ペテロは外に出て号泣します。それは「ヤバイ・マズイ・バレタ」という涙ではない。
自分を見ているイエスの眼差しが、赦しの眼差し・愛の眼差しである事が分かったからですね。

イエス･キリストを酷いやり方で裏切って、しかも、私の罪のために死んでくださったというところで終わるなら、ペテロは言えなかった（＊口述できなかった）んじゃないかと思います。

例えば、先程司会してくださった方とあなたが集会場の近くまで歩いていたとします。
その時、居眠りか何かの暴走車が突っ込んで来て、その方が「危ない！」と押してくれたので、あなたは助かったけどその方は亡くなった。この方の犠牲の上で自分は助かった。気持ちが晴れますか？
自分が助かるために大きな犠牲を払った人がいて、そのために深い悲しみに沈んでいる人たち、ご家族がおられる…と考えると、「あ～良かった」と喜べないんじゃないですか。

キリストが十字架の上で死んでくださったとしても､3日目によみがえらないなら､｢神様､感謝します！｣と、晴れ晴れした気持ちで神の前に出られないんじゃないですかね。私は出来ないと思います。

しかし、キリストは死んで終わりじゃないんです。
自分のいのちを与えるために。このいのちは永遠のいのちで、死を克服するいのちです。
キリストは私たちを赦してくださるだけではなく、永遠のいのちをも与えてくださるのです。

永遠のいのちとは神を経験するいのち。「救われたら、後は自分の力でやりなさい」ではなく、「イエスを信じた後、神を経験するいのちを頂いて、イエスと共に生きる人生が始まるよ。このいのちを受け取ってください」という招きが福音なんですね。

いかがでしょうか。あなたのために死んで、よみがえってくださった方が、あなたを今日招いておられます。是非今日、イエス･キリストを信じてください。救われます。心からお勧めしたいと思います。

ひと言お祈りして終えたいと思います。
恵み深い父なる神様、「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです」と言われました。
その多くの人の中に、紛れもなく私が入っています。
今日、人類一般に向かって話されたというより、この私に語りかけてくださっている神の言葉として、このメッセージが入りますように、受け取られますように、どうぞ、聞いてくださったお一人ひとりを祝福して導いてください。
どうぞ、お一人ひとりを救ってくださいますようにお願いいたします。
イエス･キリストのお名前によってお祈りします。アーメン。

＊動画は YouTube で「HCA 東住吉キリスト集会」
＊ラジオ番組「聖書と福音」（約 15 分）も是非どうぞ。YouTube もあります。
＊YouTube「ごうちゃんねる」もぜひ見てください。　　動画筆記：Rumi